

# 学生の介護職のイメージ

—福祉を専門的に学んでいない学生へのアンケート調査より—

Study of the image of the care worker that the students think

—Questionnaire survey of students who have not learned to specialize in welfare—

木村 典子 Noriko Kimura  
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

## 抄 録

介護職のイメージの12項目から、総合平均が3点以上であることから、マイナスイメージが強いわけではないことがわかった。自由記述の頻出語として、「大変」が最も多い語であった。原文に戻ると、「大変」に「そう」が加わっていて、偏った情報でイメージが形成されていることも予想された。介護職は低賃金で大変な仕事で離職率が高いイメージがあるが、超高齢社会となり、高齢者が増えたことで、要介護者が増え、慢性的な介護職不足と、混同して考えているために起きているイメージであるとも考えられた。正しい知識を伝えること、介護体験ができる場を増やすことは介護の魅力を高めることにつながると考えられる。

## キーワード

介護職(care worker)、イメージ(image)、学生(students)

## 目 次

- 1 はじめに
- 2 研究目的
- 3 研究方法
- 4 結果考察
- 5 考察
- 6 おわりに

### 1 はじめに

厚生労働省「介護人材確保に向けた取り組み」では、2025年に必要な介護人材数は約245万人と推計している。少子化、介護イメージの低迷などによる介護職の担い手は減少し、介護福祉現場において、深刻な問題となっている。

日本において、65歳以上の高齢者は増え続けている。一方、年少人口、生産者人口は減少してきている。65歳以上の要介護者率は18.3%となっている。要介護認定者のうち、後期高齢者が多く、今後、75歳以上の増加に伴い、要介護者数が増していく状況がある。

介護を必要とする高齢者が増えるが、高齢者の介護を支える世代の人口が減少していく中、人材の確保が課題となる。

介護は人間関係を基盤に、福祉・心理・社会・医療など幅広い知識を統合しておこなっていくものである。しかし、介護のイメージはメディアによるものが大きく、介護について知らない状況で、ネガティブなイメージが作られている。進路として介護職を志望しても、親や友人など、周囲から止められるといった調査結果がある。そのため、人材確保のためには多様な世代における理解が必要となる。

研究者は介護の魅力を調査し、福祉教育の一環と

してより効果的な発信方法を考察し、幅広い人たちへ介護の魅力を発信し、介護人材確保につながる取り組みを見出す取り組みを計画した。

本研究はその研究の第一弾の若年層への介護職のイメージ調査である。

## 2 研究目的

学生へ介護職のイメージ調査を通して、介護の魅力を発信する資料にする。

## 3 研究方法

### 3.1 調査対象

福祉に専門的に学んでいない学生 319 名、18 歳から 20 歳代である。

### 3.2 調査時期

調査時期は 2021 年 6 月

### 3.3 調査方法

介護職のイメージに関する質問紙を作成し、学年ごとに一斉に、調査の趣旨を説明し、web 調査にて、無記名で回答を得た。

### 3.3 質問紙の質問項目

質問項目は、介護職のイメージ、介護の体験、職業選択の基準、高齢者との同居である。介護職のイメージは、5 件法「よい」から「よくない」で質問し、一部、自由記述回答を求めた。

### 3.4 分析方法

質問項目の単純集計し、次に、介護職のイメージ 12 項目を 5 件法で回答を得た。「よい」5 点、「ややよい」4 点、「ふつう」3 点、「あまりよくない」2 点、「よくない」1 点の点数を与え、集計をした。介護職のイメージと、介護の体験、職業選択の基準、高齢者との同居や介護で、分散の検定を実施し、t 検定にて、比較検討した。自由記述回答は、Kh コーダソフトを使って回答内容をカテゴリー化して整理した。

### 3.5 倫理的配慮

調査目的、方法、予想される効果、個人情報が出す恐れがないことや知り得た個人の情報を漏えい、利用しない旨について口頭により説明し、アン

ケートの返信をもって、同意を得たとした。

## 4 結果

### 4.1 属性

回答者 319 名。

高齢者との同居は「同居している」が 91 名 (28.5%)、「同居していない」228 名 (71.5%) であった。

介護体験は「あり」149 名 (46.7%) 「なし」168 名 (52.7%)、無回答が 2 名であった。介護体験の内は「職場体験」は 50 名、「家族・親戚の介護」49 名「ボランティア活動」45 名であった。

### 4.2 職業の選択基準

職業の選択基準を表 1 に示した。

「興味がある」「職場が安定している」は 70% 程度が選択基準であると回答していた。

表 1 職業の選択基準(複数回答)

| 項目          | 人数  | %     |
|-------------|-----|-------|
| 興味がある       | 250 | 78.4% |
| 職場が安定している   | 219 | 68.7% |
| 高い収入        | 100 | 31.3% |
| 専門性や資格を活かせる | 68  | 21.3% |
| 社会に役に立つ     | 61  | 19.1% |
| 親が賛成している    | 54  | 16.9% |
| 特に理由はない     | 11  | 3.4%  |

### 4.3 介護のイメージ

介護のイメージ 12 項目を図 1、2、表 2 に示した。

12 項目加算した平均は  $38.00 \pm 6.77$  点、各項目の平均は  $3.17 \pm 0.11$  点であった。

介護のイメージで上位の項目は「やりがい」「社会的評価」「資格専門の活用」「就職に困らない」であった。平均が 3 点未満の低い項目に「給与の条件」「休暇の条件」「勤務時間」「身体的苦痛」「精神的苦痛」であった。

介護のイメージと高齢者の同居、介護体験、職業の選択基準の「高い収入」で、比較検討した結果は高齢者の同居と職業の選択基準で、差は認めなかった。介護体験のあり群が、介護イメージ得点で差が認められ、介護イメージ得点が高い結果となった。

介護のイメージ 12 項目のヒストグラムは図 3 に示した。

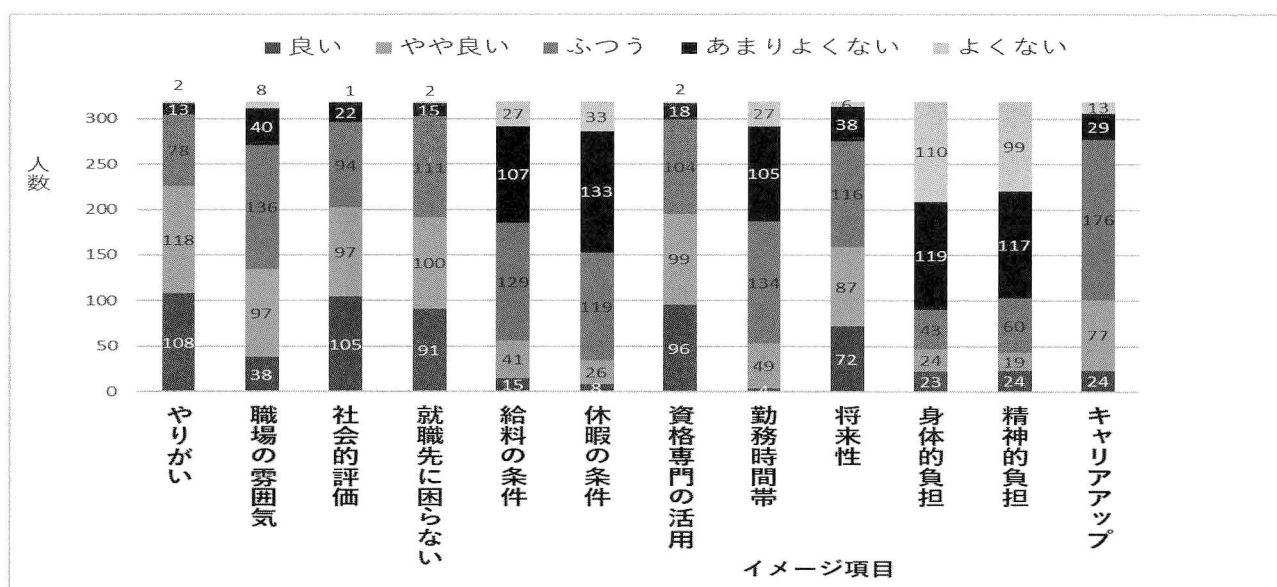


図1 介護のイメージ12項目の分布

表2 介護のイメージ12項目

|          | 良い  |       | やや良い |       | ふつう |       | あまりよくない |       | よくない |       |
|----------|-----|-------|------|-------|-----|-------|---------|-------|------|-------|
| やりがい     | 108 | 33.9% | 118  | 37.0% | 78  | 24.5% | 13      | 4.1%  | 2    | 0.6%  |
| 職場の雰囲気   | 38  | 11.9% | 97   | 30.4% | 136 | 42.6% | 40      | 12.5% | 8    | 2.5%  |
| 社会的評価    | 105 | 32.9% | 97   | 30.4% | 94  | 29.5% | 22      | 6.9%  | 1    | 0.3%  |
| 就職先に困らない | 91  | 28.5% | 100  | 31.3% | 111 | 34.8% | 15      | 4.7%  | 2    | 0.6%  |
| 給料の条件    | 15  | 4.7%  | 41   | 12.9% | 129 | 40.4% | 107     | 33.5% | 27   | 8.5%  |
| 休暇の条件    | 8   | 2.5%  | 26   | 8.2%  | 119 | 37.3% | 133     | 41.7% | 33   | 10.3% |
| 資格専門の活用  | 96  | 30.1% | 99   | 31.0% | 104 | 32.6% | 18      | 5.6%  | 2    | 0.6%  |
| 勤務時間帯    | 4   | 1.3%  | 49   | 15.4% | 134 | 42.0% | 105     | 32.9% | 27   | 8.5%  |
| 将来性      | 72  | 22.6% | 87   | 27.3% | 116 | 36.4% | 38      | 11.9% | 6    | 1.9%  |
| 身体的負担    | 23  | 7.2%  | 24   | 7.5%  | 43  | 13.5% | 119     | 37.3% | 110  | 34.5% |
| 精神的負担    | 24  | 7.5%  | 19   | 6.0%  | 60  | 18.8% | 117     | 36.7% | 99   | 31.0% |
| キャリアアップ  | 24  | 7.5%  | 77   | 24.1% | 176 | 55.2% | 29      | 9.1%  | 13   | 4.1%  |

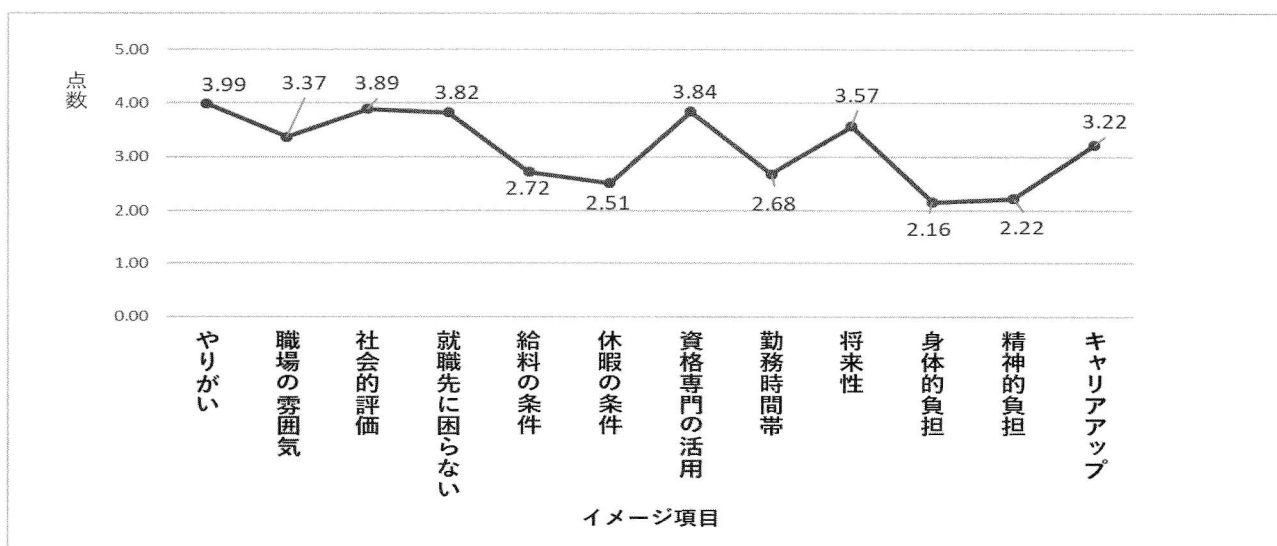


図2 介護のイメージ12項目の平均

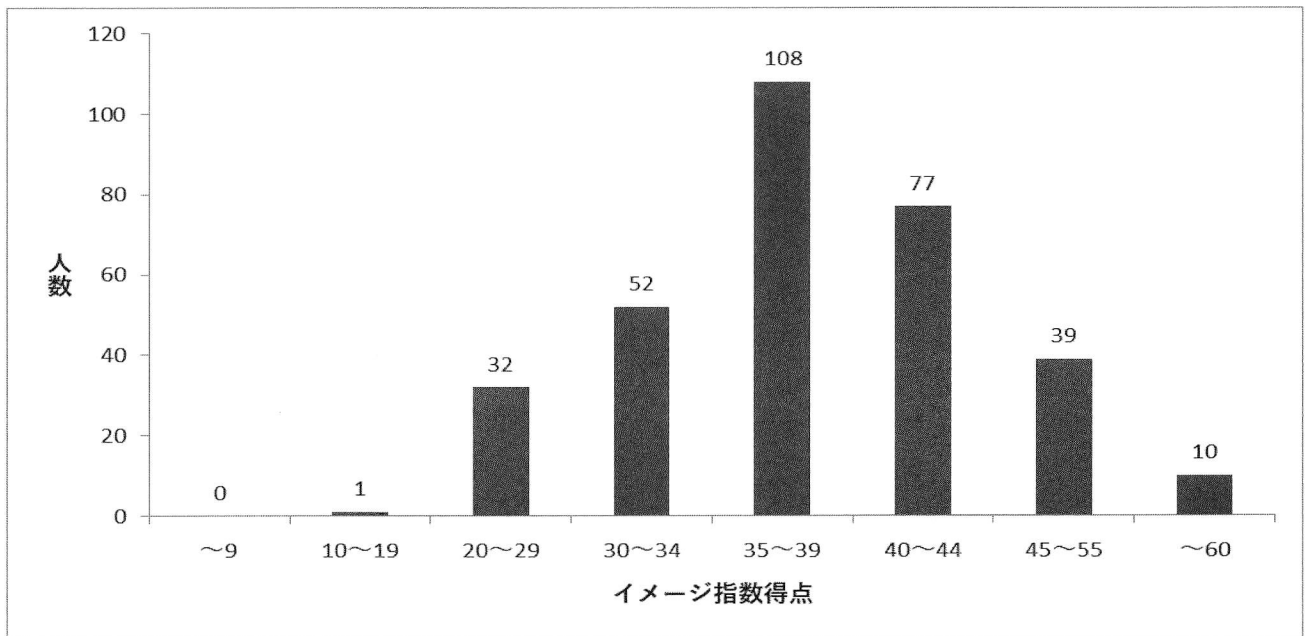


図3 介護のイメージ得点分布

#### 4.4 介護イメージの自由記述の頻出語

総抽出語は931語であった。そのうち、重なり語数は213語であった。頻出が4回以上ある語を表3に示した。4回以上の出現した語は全体の77.0%を占めた。

「大変」が131回と、最も多い結果となった。「大変」が入っているテキストの一部を以下に示した。

わかりやすくするため、斜線文字と<>の括弧をつけた。高齢者の生活を支える行為について、「大変」そうと示しているテキストと、高齢者との関わるためのコミュニケーションが「大変」そうと示すテキストがあった。

- <重労働の割に給料が低い身体的精神的に介護する側がしんどい、大変そう>
- <とても大変な割に給料が良くない>
- <おじいちゃんの高齢者を介護、大変>
- <四六時中気を張っていなければいけなさそうで、大変なイメージ>
- <大変そう、車椅子>
- <大変そう、病気の方や祖父母のお世話>
- <1人で十分に生活できない人のお手伝いをすると、支え合い大変そう、難しそう医療従事者>
- <大変なイメージ、苦勞する、おばあちゃんおじいちゃんの暮らしをサポートする>
- <大変、老人の介護、お風呂に入れたり服の着替え>
- <大変そう コミュニケーション能力が必要そう>
- <大変そう、介護する人に寄り添う>

#### 4.5 介護イメージの自由記述の共起ネット

自由記述を共起ネットの図4に示した。8つのサブグラフに分かれた。原文に戻りながら、検討した。8つのサブグラフは大きく、3つにカテコライズされた。図に実線、丸の点線、四角の点線で囲った。

実線で囲ったサブグラフは3つあった。「高齢者の手助けをし、生活が自分でできるようにする」「高齢者の不自由なところを助ける」「風呂へ入れるよう手伝う」であり、『高齢者の生活を支える』内容を示した。

丸の点線で囲ったサブグラフは4つあった。「負担の多い仕事である」「認知症の方もいてストレスの多い仕事である」「忙しい仕事である」「肉体労働である」であり、『介護の仕事の大変さ』の内容を示していた。

四角の点線で囲ったサブグラフは「施設や家での介護がある」であり、『介護の場』を示していた。

#### 4.6 介護イメージの自由記述の対応分析

介護のイメージ12項目の回答の合計点の点数を高得点群(以下高群)、中得点群(以下中群)、低得点群(以下低群)にわけた。これを変数に対応分析した。

高群は41点以上111名、中群は36から40点107名、低群は35点以下101名となった。

対応分析は図5に示した。

表3 介護のイメージの自由記述の頻出語

| 抽出語    | 出現回数 | 抽出語  | 出現回数 | 抽出語  | 出現回数 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 大変     | 131  | ストレス | 9    | 世話   | 5    |
| 介護     | 39   | 自分   | 9    | 福祉   | 5    |
| 生活     | 34   | 助ける  | 9    | 優しい  | 5    |
| 人      | 30   | できる  | 8    | かかる  | 4    |
| 高齢     | 28   | サポート | 8    | しんどい | 4    |
| ない     | 26   | 支える  | 8    | すごい  | 4    |
| 手助け    | 24   | 多い   | 8    | たいへん | 4    |
| イメージ   | 22   | 出来る  | 7    | とても  | 4    |
| 年寄り    | 21   | 精神   | 6    | ひとり  | 4    |
| お世話    | 17   | 動ける  | 6    | 手伝う  | 4    |
| なる     | 14   | 肉体   | 6    | 身の回り | 4    |
| おじいちゃん | 13   | 認知   | 6    | 辛い   | 4    |
| ばあちゃん  | 13   | 負担   | 6    | 体    | 4    |
| 老人     | 12   | 仕事   | 5    | 体力   | 4    |
| 不自由    | 11   | 施設   | 5    | 得る   | 4    |
| 必要     | 10   | 若い   | 5    | 難しい  | 4    |
| ある     | 9    | 手伝い  | 5    | 労働   | 4    |

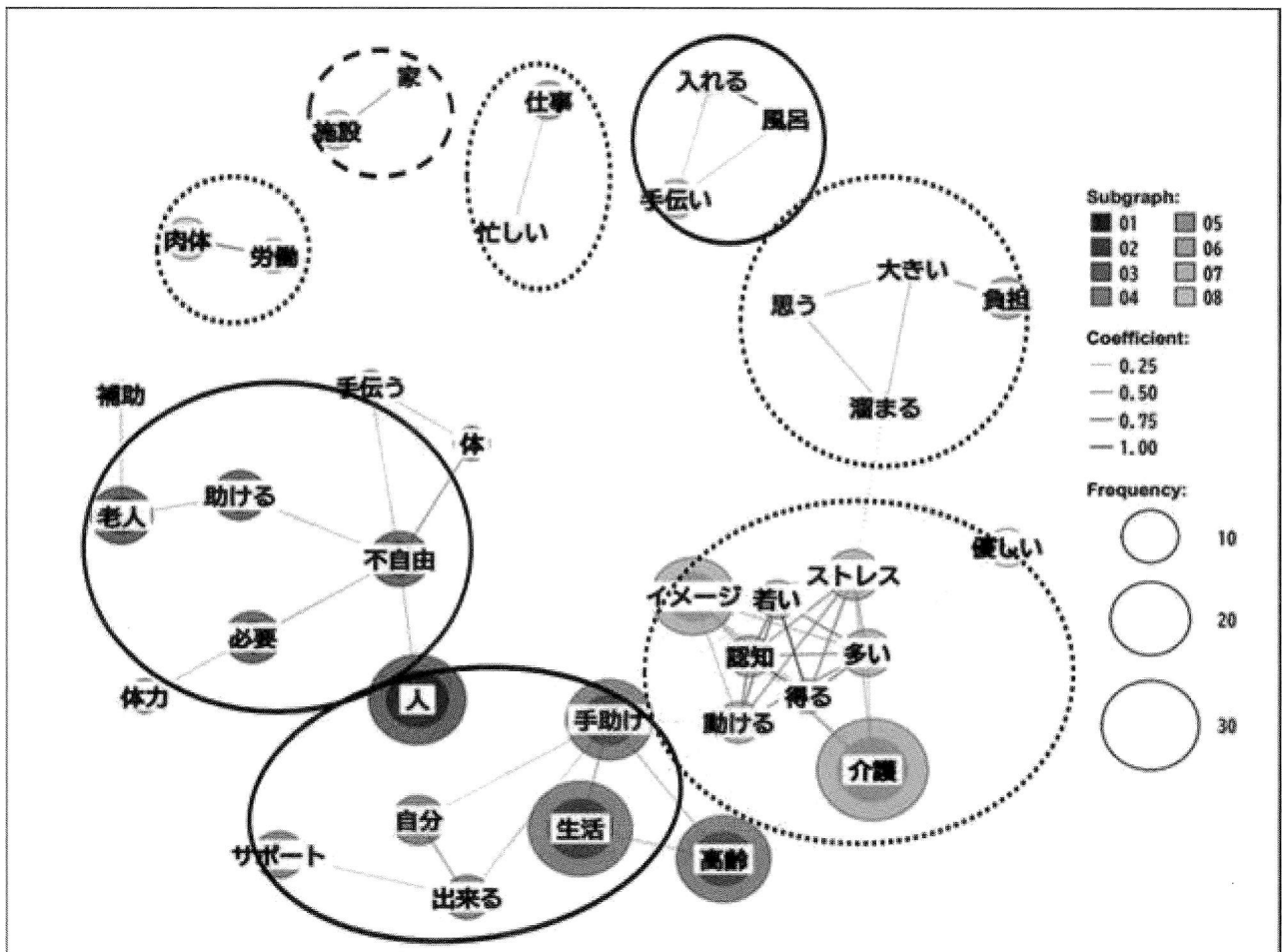


図4 介護イメージの自由記述の共起ネット

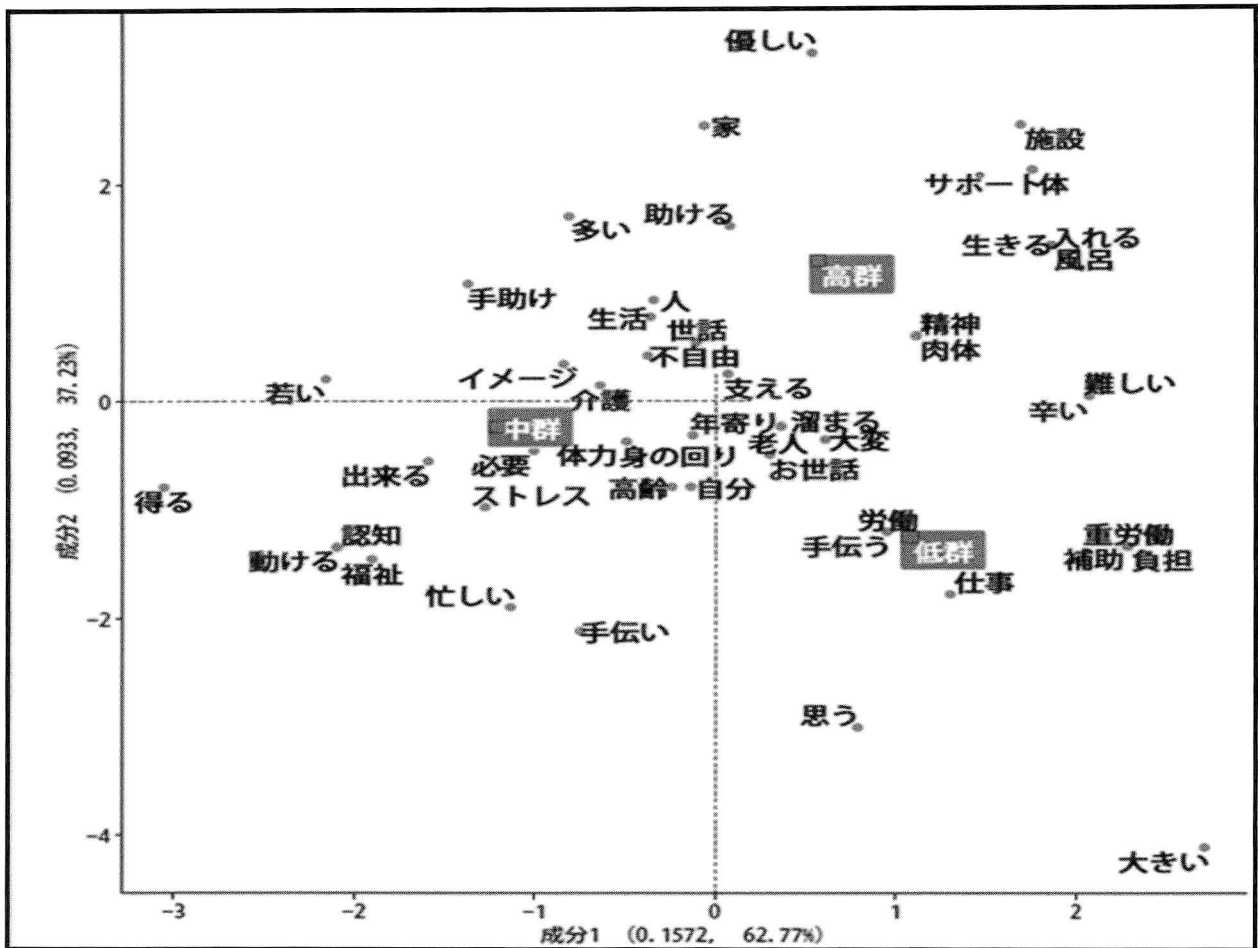


図5 介護のイメージの自由記述 対応分析

高群では「助ける」「支える」「サポート」「手助け」の語があった。

中群では「ストレス」「体力」「忙しい」の語があった。

低群では「労働」「仕事」「負担」の語があった。

介護のイメージの得点が高群では、介護の本質となることについて、介護職のイメージとして抱いていた。中群では、介護職の仕事をする中で、生じる「ストレス」や「体力」が必要なこと、介護の仕事の状況の「忙しさ」を示していた。低群では、介護を「仕事」「労働」と捉え、介護の仕事を重労働で、「負担」のあるものとしていた。低群、中群では介護のマイナスイメージに関する内容であった。

## 5 考察

介護のイメージについて、リッカート尺度と自由記述の質問紙にて調査をおこなった。

対象とした学生は、福祉について専門に学んでいない学生を対象とした。世間一般に介護がどのように捉えられているか検討する資料になると考える。

介護職のイメージの12項目から、総合平均が3点以上であることから、マイナスイメージが強いわけではないと考えられた。やりがいや資格・専門性を行かせる仕事であると捉え、社会的評価のある仕事であると考えていた。自由記述の頻出語として、「大変」が最も多い語であるように、「身体的」「精神的」にも大変な仕事と捉えていることがわかった。「賃金」「勤務体制」は低いイメージとなっていた。職業選択基準で、3割程度の学生が高収入であったため、介護のイメージに影響があると考えたが、関係ない結果となった。介護職は低賃金であるイメージであると思われることが考えられた。払拭していく活動が必要と思われる。リクルートの職業別調査では介護職の賃金は他の職業と比べ、差はなく、平均的なものである。また、介護職は大変な仕事で離職率が高いと思われるが、これも他の職業と変わらない。超高齢社会となり、高齢者が増えたことで、要介護者が増え、慢性的な介護職不足と、混同して考えていることで起きているイメージであるとも考えられた。

介護のイメージは、介護体験をしている学生の方

が、介護体験をしていない学生と比べ、よい結果であった。一般の方に、介護について、職場体験、ボランティア活動などの機会は介護のイメージをよくする一つの手段となることが考えられる。介護体験のない学生は介護のイメージをテレビやネット等で、偏ったイメージを作りあげていることも考えられた。

介護のイメージの自由記述から、「大変」といったイメージが多いことがわかったと同時に、高齢者の生活を支えるといったことを書いている学生や、介護の本質をとらえている学生もいて、高齢者の生活を支えるために、介護は福祉、医療、心理、法など様々な知識を基盤に展開していく、介護の奥深さを伝えることが大切であると考え。人との出会いから、関わりを通して、人間理解の奥深さのある興味深い仕事であることを伝えていくことは、介護のイメージをよくする働きかけになることである。現場の人たちの声を伝えていくことは、よい試みであると考え。

## 6 おわりに

幅広い人たちへ介護の魅力を発信し、介護人材確保につながる取り組みを見出すことにつながるために、若年層への介護職のイメージ調査をした結果は、介護職のイメージは悪くなかった。やりがいがあり、社会的評価される仕事と理解されていた。「大変」そうといったイメージはあるが、介護体験ができる場、介護について伝える場を増やすことは介護の魅力を伝えることにつながると思われた。

## 謝辞

この研究は岡崎懇話会 令和3年度 岡崎における産学官共同研究助成金の交付を受けたものであります。

テーマ:「住み続けたいまち岡崎市のSDGs 達成に向けた取り組み—介護普及 キャラバン隊—」の研究一部です。

ここに、岡崎懇話会の会長様をはじめ、深く、感謝いたします。また、アンケート調査に協力いただいた学生達に感謝いたします。

## 参考文献

皆川順子、倉田郁也、前島克美、川延宗之(2017)、介護職の

職業イメージに関する社会学的考察と介護福祉教育の役割、文京学院大学人間学部研究紀要.18.143-152  
公益財団法人日本介護福祉士会(2015)、介護の仕事の社会的な意義と魅力の整理とイメージアップ戦略のあり方についての調査研究報告(PDF)

[https://www.jaccw.or.jp/wp-content/uploads/2020/09/H26\\_hokoku.pdf](https://www.jaccw.or.jp/wp-content/uploads/2020/09/H26_hokoku.pdf)

(原稿受理年月日：2021年9月13日)